



2023 SUPER FORMULA Rd.1-2
2023.04.07-09 FUJI SPEEDWAY



はじめに

今シーズンの全日本スーパーフォーミュラ選手権が開幕となりました。国内トップフォーミュラにステップアップすることは一つの大きな目標でもあり、参戦が決まってからは開幕を待ち遠しく思っておりました。3月のGTテストで負傷してしまった影響で、シーズンオフテストには参加できず不安もありましたが、できる限りの戦いをしようという思いで富士スピードウェイに向かいました。

4月7日(金) フリープラクティス

開幕戦は2レース開催のため、金曜日に90分間の公式練習が用意されていましたが、大雨の影響でセッション自体がキャンセルとなり、代替措置として土曜日の予選が計時予選に変更されました。この時点で、新型車両SF23の初走行が予選となることが決定しましたが、予想されるコンディションやマシンバランスを踏まえてチームとミーティングを重ね、準備を行いました。主にオンボード映像を利用し、ドライビングのイメージもできる限り作り予選の走行に備えました。

4月8日(土) 予選(45分間計時予選)

45分間の計時予選がスタートし、まずはマシンとサーキットにいち早く慣れるために周回を重ねました。コンディション的に、セッション序盤がタイムの出やすい状況でしたが、この時点ではまだマシンへの理解度が深まりきっておらず他の選手に遅れをとる形になってしまいました。ドライビングの観点では、セッション後半にかなり合わせ込みが進みましたが、この時点では既にタイムが出にくいコンディションになっていたことでタイムを伸ばせず、結果的に17番手で予選を終了しました。SF23の初走行で学ぶことは多かったですが、決勝に向けて17番手と下位に沈んでしまったことには悔しさが残ります。

4月8日(土) 決勝

太陽が見え隠れする天候で今シーズン初めの決勝レースが始まりました。スタートやピットストップ、そしてロングランなど、初めてづくしのレースは少なからずプレッシャーを感じるものでした。少しでも前のポジションでチェッカーを受けるために、集中を高めてマシンに乗り込みましたが、結果としてスタートでエンジンストールをしてしまい、勝負権を失う形になってしまいました。操作的には問題はなかったようですが、スタート練習不足から、クラッチのバイトポイントの設定値にズレがあり、この結果になってしまいました。再スタートした際にはすでに1周遅れの状態で、そこからは淡々と周回を重ねました。タイヤのグリップダウンによるタイムへの影響が大きく、レースペースには課題があることが明確になった決勝レースでした。他車と戦うことができなかったことには悔いがありますが、40周を完走し日曜日のレースにつながるものになりました。



4月9日(日) 予選(Q1 Bグループ)

土曜日の予選、決勝で得られたデータをもとにセットアップを変更し予選に臨みました。また、昨日の課題であったタイヤのウォームアップもアジャストを行いアタックに入りました。マシンバランスは良い方向に進み、特にセクター3のタイムは大きく向上しました。しかし、コカコーラコーナーでのミスによって4輪脱輪をしてしまいベストタイム抹消というペナルティを受けてしまいました。マシンバランスの変化に合わせきれずにこのようなミスを誘発してしまい本当に悔しいです。昨日の計時方式とは違い、この予選は通常のフォーマットでしたので、アタック一周でタイムを出す必要がありましたが、ミスによってQ1敗退が決まったことから、次戦以降はドライビングの精度を上げて確実に最大限のタイムを出せるようにしたいと思います。

4月9日(日) 決勝

土曜日の決勝レースはスタートで勝負権を失ってしまいましたが、この2レース目は無事にスタートを切り、いくつかポジションを上げることに成功しました。そこからはペースも良く、バトルをしながら前車をパスすることにも成功し、まずまずの展開でした。しかし、10周を迎えるところで他車と接触しフロントウィングにダメージを負った影響でペースが落ちて苦しい展開になりました。そこからは集団についていくことも難しくなり、結果的に20番手でレースを終了しました。マシンのフィーリングは昨日に比べて改善しており、接触がなければポジションを上げてゴールできていた可能性もあったので悔しく思います。今年からオーバーテイクの回数も増え、さらに激しいレースが展開されるスーパーフォーミュラで勝つために、接近戦の強さも磨いていかなければならないと感じています。

おわりに

スーパーフォーミュラのデビューレースは本当に悔しい結果になりましたし、週末を通して、良い流れを掴めなかったことには反省点が多いです。しかしながら、この2レースでマシンへの理解度が深まり、ドライビングの学びも多くありました。2週間後に控える鈴鹿大会に向けては、チームと一丸となってマシンとドライビングの双方を向上させ、上位争いができるように全力を尽くします。引き続きよろしくお願いいたします。

**HONDA**



KAKUNOSHIN OHTA RACE REPORT

2023 SUPER FORMULA Rd.1-2

2023.04.07-09 FUJI SPEEDWAY



HONDA

